

## 「主イエスのご降誕」

2015年04月14日

ルカによる福音書 2章1節～7節。そのころ、皇帝アウグストゥスから全領土の住民に、登録をせよとの勅令が出た。これは、キリニウスがシリア州の総督であったときに行われた最初の住民登録である。人々は皆、登録するためにおのおの自分の町へ旅立った。ヨセフもダビデの家に属し、その血筋であったので、ガリラヤの町ナザレから、ユダヤのベツレヘムというダビデの町へ上って行った。身ごもっていた、いいなずけの MARIA と一緒に登録するためである。ところが、彼らがベツレヘムにいるうちに、MARIA は月が満ちて、初めての子を産み、布にくるんで飼い葉桶に寝かせた。宿屋には彼らの泊まる場所がなかったからである。

ルカが記した主イエスの降誕物語はルカの神学、キリスト告白が明確に表されている。主イエスのご降誕の歴史的事実はほとんど不明である。ルカは上記の記述を通して、主イエスが誰であり、どんな使命を持って生き、死んだかを著そうとしている。主イエスの生涯の真実を降誕物語に込め、この視点からルカ福音書を読むように促している。ルカの記述にそって読む時、主イエスの生と死に現された福音を受け止めることができる。

アウグストゥスがローマ皇帝で、キリニウスがシリア州の総督であった時、全領土に住民登録をせよとの勅令が出た。住民登録はもちろん税金徴収のためである。ローマ帝国は日の出の勢いで地中海沿岸を支配下に治めていた。豪華な生活をしていたローマ皇帝、貴族たちを支え、また膨大に膨れ上がった支配地域を治めるためには巨額なお金を必要とした。支配下に置いた国々から税金を徴収しなければならなかった。ユダヤも当然、住民登録をし、課税させられた。この時「おのおの自分の町へ旅立った」と、現住所ではなく、本籍のある町での登録を命じられた。ナザレのヨセフはダビデ家の家系であったので、ダビデの町ベツレヘムに上らざるを得なかった。ヨセフは許嫁で身重の MARIA を連れて、ナザレから 120 km も離れたベツレヘムまでの旅を強いられた。ここには、強大な権力の下で、翻弄させられる民衆の苦しみと呻きが描かれている。ルカはまず、理不尽な政治体制の下で、主イエスのご降誕されたと記している。

ヨセフと MARIA がベツレヘムに到着すると、MARIA は月が満ち、初めての子を産んだ。その場所は家畜小屋であった。住民登録で民衆は皆、本籍地への移動を強制され、宿屋はどこも一杯であった。ヨセフは宿を取ることができず、MARIA は出産した男の子を布にくるんで飼い葉桶に寝かせた。神が遣わした主イエスは王宮どころか、人の泊まる所ではない家畜小屋でご降誕された。これらの記述は、ローマの過酷な支配を背景にしながらも、当時の歴史的事情から理解し難いことが多々ある。しかし、ルカは、住民登録に翻弄させられたヨセフと MARIA の過酷な旅、そして、居場所が得られず家畜と一緒に場所でのご降誕を記している。

ここから、主イエスの生涯が浮かび上がって見えてくる。主イエスは権力者の側でなく、虐げられた民衆の側に身を置いた。それは、権力を振り回す者への厳しい視点を持ち、彼らの高慢と戦った姿と重なる。そして、飢え渴き、貧しく病む民衆に対し、神の愛と祝福を告げ、その事実をリアルに現された。居場所を失った人々に神にある居場所を提示された。降誕物語は主イエスの生涯を先取りして「飼い葉桶から十字架まで」を歩んだ主イエスに注目させようとしているのである。